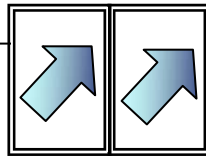


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（7月4日時点）～

国内景況感

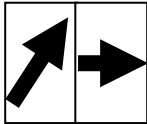
サプライチェーンの復旧が早いペースで進んでいることから、景気は足元で急回復している。当面こうした動きが続くことに加え、復興需要の顕在化も期待できることから、景気は先行きも回復基調が続く見込み。



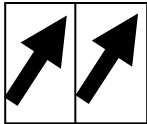
現状 6ヶ月後

(2011年7-9月期) (2012年1-3月期)

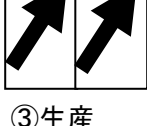
①世界経済



②輸出



③生産



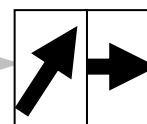
④企業収益



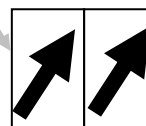
⑥雇用・賃金



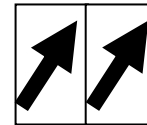
⑦個人消費



⑧住宅投資



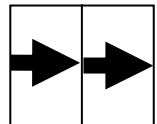
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年の世界景気は、インフレ圧力の高まりによる金融引き締めによって成長ペースが小幅鈍化する公算が大きい。先進国は、年後半には日本経済の回復や米国景気刺激策の効果等により成長ペースが加速しよう。一方、新興国は内需の拡大等により堅調さを維持し、年を通じて世界景気を牽引すると予想する。 ・米国経済は、年後半にはエネルギー価格のピークアウト、サプライチェーンの復旧、設備投資の駆け込み需要により前期比年率+3%程度に加速するだろう。 ・ユーロ圏経済は、周辺国の債務問題を抱えながらも、好調なドイツ経済が全体を下支えする形で、緩やかな回復基調を維持すると見込まれる。 ・アジア経済は、インフレ圧力の高まりを受けた金融引き締めによって昨年の高成長からは減速するものの、中国、インド主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	東日本大震災の発生に伴う部品工場の操業停止や物流の停滞により生産が減少したため、3、4月の輸出は大幅に落ち込んだ。5月以降は、サプライチェーンの復旧が進んでいることから輸出向け生産が持ち直しており、輸出も高い伸びになっている。当面、回復基調が続くだろう。
③生産	サプライチェーンの復旧が予想以上のペースで進展していることから、生産は急ピッチで回復している。当面、こうした動きが生産を押し上げることに加え、秋以降は復興需要の顕在化も期待できることから、生産は回復傾向が続く可能性が高い。
④企業収益	年前半の企業収益は東日本大震災の影響で悪化したが、足元では生産の持ち直しに伴って回復に転じている。原材料価格の高止まりは懸念材料だが、先行きも生産の増加に伴って企業収益の回復傾向が続く見込み。
⑤設備投資	東日本大震災発生後も企業の投資意欲は大きく損なわれていないことに加え、復興需要の存在もあり、設備投資は増加している。先行きも、復興需要による押し上げが続くことから増加する可能性が高い。
⑥雇用・賃金	東日本大震災の影響で経済活動が大幅に抑制された影響が波及していることから、雇用・賃金は抑制された状態が続いている。先行きについては、生産活動の持ち直しに加え、復興需要に伴い建設業での雇用増が期待できるため、緩やかに持ち直すだろう。
⑦個人消費	供給不足の解消により自動車販売が大幅な増加に転じたことに加え、消費者の不安心理が徐々に和らいでいることもあり、個人消費は持ち直している。もっとも、雇用・賃金が低迷していることから、回復ペースは緩やかなものにとどまる見込み。
⑧住宅投資	東日本大震災に伴って資材の供給が滞ったことで、4-6月期の住宅投資は悪化したが、7-9月期以降は持ち直しが予想される。先行きも、復興需要による押し上げが期待できることから、住宅投資は増加する可能性が高い。
⑨公共投資	11年度補正予算の効果から、7-9月期公共投資は増加する可能性が高い。先行きも、復興関連の投資が大幅に増加する可能性が高く、公共投資は増加する見込み。
⑩物価	原油や食料品価格上昇の影響から、消費者物価指数は上昇している。もっとも、需給ギャップが依然大きいことから、エネルギーや食料を除いた基調部分では改善は限定的なものにとどまるだろう。また、8月に予定されている基準改定で、伸び率が下方修正される可能性が高い点には注意が必要。